

平成26年度 地区別父母懇談会 開催

二松學舎大学
父母会報

平成5年5月10日創刊
平成26年10月20日発行
(第86号)

二松學舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松學舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書



渡辺学長挨拶



(ともに東京会場・九段校舎)



平成二十六年二松學舎大学地区別父母懇談会が、六月二十二日(日)の盛岡市・福岡市を始めとし、七月二十二日(日)まで全国八都市(開催日程順に長野市・高知市・千代田区〔九段校舎〕・松本市・名古屋市・広島市)で開催されました。

地区別父母懇談会は、父母会の主要事業の一つで、今年で二十一回を数えます。大学から学長・副学長・学務局長・学部長・両学部の教員及び職員が分担して各地に赴き、父母との懇談を行いました。

懇談会の内容は大学の現況、本学の教育方針、学習状況・学生生活・就職状況等についての説明、個別相談でした。父母の関心が高かったのは、「学習状況」と「大学の現況」でした。

九段校舎では、キャリアセンターによる「就職を取り巻く状況と親のかかり方について」の講演、教職支援センター・特別後援会として、この春に本学を卒業した新任教員から教員採用試験の体験談を話していただき、好評を博しました。内容については、七ページに掲載していますので、ご一読下さい。



六月二十二日(日)の岩手県、福岡県を皮切りに全国各地で父母懇談会が開催され、父母と大学教職員の交流が行われました。その内容を寄稿していただきました。

岩手会場

齋藤 富恵

六月二十二日(日) 岩手県のホテル東日本盛岡にて父母懇談会が開催されました。大学より田中正樹中国文学科教授・土屋茂国際政治経済学
科教授・西園隆士教学事務副部長・小沢洋之入試課長補佐の四名にご出席頂き、岩手・宮城・秋田から九名の父母が参加されました。

昨年の懇談会をためらった私でしたが、今回参加してみても和やかな雰囲気の中、大学側の丁寧な説明とキメ細かな対応に、心配や不安はすぐに消えていきました。

「そうだったのね」「そういう事なんです」と、小さな疑問が次々と解決される説明は本当にありがたいものでした。昼食を取りながらのDVDでは、離れて暮らす娘から聞いた話と重ねながら、大学生活の一端を見れた事も楽しい時間でした。

また、個別面談も成績や就職等について、どんな質問へも親身になって懇切丁寧に教えて頂き有意義なものでした。キャリアセンターの学生



支援の説明も心強く、娘も知らないようなので、是非活用して欲しいものです。このようなサポート体制の中で子供達が大学生活を送れる事に安心したと同時に心から感謝しております。

今回、遠い存在だった大学が、とても身近に感じる事が出来、このような機会を頂いた事に感謝と共に、大学及び父母会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

福岡会場

金城 留美子

福岡会場の父母懇談会は、六月二十二日(日)、西鉄グランドホテルにて開催されました。大学から渡辺学長、江藤文学部長、学生支援課の小西課長、同窓会の廣田副会長にご出席いただき、父母は鹿児島、長崎からも含め七名の参加者でした。

様々な学年、学部にわたる保護者にとっては、大学の歴史を伝えるDVDや授業状況、カリキュラム、就職状況等、どの説明も興味深いものでした。その中で、九州からの学生が減少したとの報告を受け、廣田副会長から、九州の同窓生のつながりを強め、地元での就職活動に生かしたいとお話がありました。保護者にとっても、心強い限りで早く組織が構築されることを願っています。

個人面談では、参加者一人一人に丁寧に対応される先生方の姿がありました。人付き合いが苦手な息子については、出席状況や登録科目を教えて頂きました。何より感激したのが、息子が所属するゼミの教授である渡邊了好先生のお手紙でした。息子の性格を見抜いて温かく接して頂いている様子がうかがい知れる内容



で本当にありがたく思いました。学生支援課の先生方にもアドバイスをもらい、本人のやるべきこと、やりたい勉強が見つかったようであれば大学に行きたいという意欲につながっています。細やかな配慮に感謝しております。卒業時には是非、同窓生の親として学生募集にも協力したいと思っております。

長野市会場

柳澤 しのぶ

長野市会場の父母懇談会は、六月二十九日(日) ホテルサンルート長野で開催されました。大学より山崎副学長、押野国際政治経済学部教授、神河学務局次長、大上入試課長補佐のご出席をいただきました。一〇四年生の学生の父母七家族十名の参加者の中、県外からの出席者もいらっしやいました。

昨年の四月、雨の中、娘とともに参加した入学式。その帰り、雨宿りがてら入ったファミレスで、彼女はこれから始まる大学生活への希望と不安を語ってくれました。それから早一年。娘の成長にご尽力くださっている大学への理解を深めたく思い、夫婦で出席致しました。

懇談会は、終始和やかな雰囲気の中行われ、学部の現状、学生の学習状況、キャリアセンターの役割・活用方法等を、丁寧に説明していただきました。

昼食時には、創立者の三島中洲先生のDVDを拝見し、大学の歴史に触れることができました。また、春セメ・秋セメの時間割、成績通知書の他、基礎ゼミの瀧田教

授のコメントもいただだけ、学生一人ひとりに目の行き届いた大学であることに感激致しました。今回、懇談会に出席し、有意義な時間を過ごすことができました。このような機会を設けていただきましたことに感謝いたしますとともに、大学及び父母会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



高知会場

森下 貴彦

四国地区の父母懇談会は、六月二十九日(日) 高知市の高知サンライズホテルで開催されました。父母は二家族四名の参加でした。大学からは、渡辺学長、江藤文学部長、増田教務課長、志津入試課係長に御出席いただき、二松学舎松苓会の廣田副会長にも御臨席いただきました。

渡辺学長からは、学生生活では与えられた自分の時間を有効に使うことが大切であること。また九段四号館の整備など「九段集約」が進んでいる状況についてお話がありました。

江藤先生からは、国文学の卒業というものは、一生をかけてするものであり、大学卒業後も引き続きしっかり勉強してほしいとお話が印象に残っています。江藤先生は息子のゼミの指導教授ということもあり、普段の様子も伺うことができました。

続いて教務課からは、国際政治経済学部のカリキュラムや就職状況の説明をしていただきました。また松苓会の廣田副会長のお話はOBの繋がりを大きな力にしてい

たいという心強いものでした。今回参加して感じたことは、二松学舎大学が、学生一人一人に目の行き届いた家庭的な雰囲気のある大学であるということです。準備不足で参加したことを少し後悔していますが、大学を身近に感じられる貴重な機会でした。大学及び父母会の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。



東京会場

岡見 由美子

東京会場の父母懇談会は、七月五日(土)九段校舎一号館の中洲記念講堂において開催されました。

あいにくの小雨模様にもかかわらず会場には、ほぼ満員の父母が集まりました。

渡辺和則学長の挨拶では、建設中の四号館についてなど大学の現況や、更なる発展に向けての大学側のご努力などを伺うことができました。

江藤文学部長、菅原国際政治経済学部長からは、それぞれの学部の特徴ある授業の話等を伺い、その後、履修登録や卒業要件、GPAの見方について説明していただきました。

昼食は、お弁当を地下一階の学生食堂でいただきました。学生達の普段の生活の楽しそうな様子を見ながら美味しくいただきました。

十三階のラウンジではスカイツリー、東京タワー、武道館など美しい景色を眺めながら休憩をとることができました。

校舎内はとてもきれいで、明るくしかも落ち着いた雰囲気でした。このような環境の中で学ぶ事ができる子供達は幸せだなあと思いました。



個別相談では、私達のささいな質問にも丁寧に答えてくださり、今日一日を通して、安心して子供を通わせる事ができる大学であると実感致しました。

このような機会を作っていただき感謝致しますと共に、大学及び父母会の今後益々のご発展を心よりお祈り申しあげます。

松本会場

小林 護

松本会場の父母懇談会が、七月二十日(日)に松本東急インに於いて開催されました。山崎正伸副学長、土屋茂教授をはじめ、本学職員の皆様にお越しいただき、父母は五家族七名の出席でした。本年は、長野会場のみならず松本においても開催していただけたことから、長野県内出身の本学在籍学生五十五名の現況に鑑みても、それ相当の出席率ではなかつたかと存じます。地方出身者並びに保護者へのご配慮に改めて感謝申し上げます。お二人の先生方より、各学部の進級/卒業要件、成績表の見方、教職を含む就職状況、そして大学としての取組みや支援体制について、ご説明を頂きました。二松学舎の考えを垣間見る貴重な時間になりました。

引き続き、TVせとうちに於いて放映された「漢学者三島中洲物語」を視聴しながら、昼食をいただきました。創立者の本学創設の想いを知り、改めて感銘を覚えました。本学の長い歴史と数多くの著名文化人の輩出を誇りに持って、在学生の皆様方には、教育・文化面で一流の社会



人に成長して欲しいと願うばかりです。また個別相談会では、和やかな歓談に終始しました。そんな中で、二松学舎の知名度を高める為には、「大学の特色・専門性を今以上に鮮明にして発信すべき」であろうと、個人的に拝察した次第です。二松学舎大学及び父母会の益々のご発展を祈念申し上げます。

愛知会場

渡辺 靖子

七月二十一日(日)、名古屋栄東急インにて愛知会場の父母懇談会が開催されました。大学からは渡辺学長をはじめ、森野教授、OB会廣田副会長、小西学生支援課長、毛塚入試課係長の五名にお越し頂き、一々四年生の父母六名が参加されました。お恥ずかしながら、当初は懇談会への出席を躊躇しておりました。大学の父母懇談会？皆さん出席されるのだろうか？緊張と不安を抱え会場を訪れたのですが、その不安はすぐに払拭されました。先生方のお話は大学の現況、学習状況など多岐にわたりましたが、共通しているのは学生への愛情ときめ細やかな対応でした。生徒一人一人をきちんと見てくださっているのだと実感しました。

また、保護者の方からは就職が決まりましたと言う嬉しいご報告や進路や海外留学に関するご質問があり今後の我が子の姿と重ね合わせてお話を伺う事ができ、一年生の親としては大変参考になりました。

懇談会に参加した事で大学がより身近に感じられ、「やっぱり、この大学で良かった」そう安心できた事



は親として本当に有難い事でした。まだ参加された事のないご父兄には是非一度参加される事をお勧めしたいと思います。

学生の少ない地区にもかかわらずこのような貴重な機会を設けて頂き本当にありがとうございます。大学及び父母会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

広島会場

石田 真理子

広島会場の父母懇談会が七月二十七日(土)広島インテリジェントホテルにて開催され、一年生から四年生まで各学年の父母五家族六名が参加しました。

はじめに松苓会の大地副会長様より松苓会について紹介があり、現在広島で一四〇名の卒業生が活躍されていること、また「在学中は大学がサポートし、卒業後は松苓会がサポートします。」との大変心強いお言葉をいただきました。

続いて国際政治経済学部田端先生と文学部の原先生より大学の現状報告や学生生活、学習状況、就職状況など詳しいご説明があり、個別に時間割や成績表、ゼミの教授のコメントには出席状況やクラブ活動のことまで、きめ細かく良く見てくださっていることに感激しました。

またキャリアセンターの取り組みや活用方法について丁寧にご説明いただき、学生一人ひとりの進路実現に向けてのサポート体制が整っていることや「困ったり悩んだらいつでも相談してください」とのお言葉に安心いたしました。積極的に利用さ



せていただくよう息子に伝えます。

田端先生の「就職には基礎学力ともう一つ大事なものは目の輝きです」という言葉、心に残りました。

この度は先生方の誠意と熱意に触れ、大学を身近に感じられる機会を作ってくださいありがとうございました。大学および父母会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

父母会地区別父母懇談会アンケート 集計結果

1. アンケート回答者数

分類	岩手 (9)	福岡 (9)	長野 (10)	高知 (4)	東京 (342)	松本 (7)	愛知 (6)	広島 (6)	合計 (393)
1年生の父母	3	2	3	1	43	1	2	3	58
2年生の父母	3	1	1	0	32	2	3	1	43
3年生の父母	0	0	1	0	31	1	0	1	34
4年生の父母	0	1	2	0	15	1	1	0	20
学年不明	0	0	0	0	2	0	0	0	2
合計	6	4	7	1	123	5	6	5	157

() 内の数字は出席者数

2. 父母懇談会実施項目の「有意義」回答数

項目	岩手	福岡	長野	高知	東京	松本	愛知	広島	合計
大学の現況報告	4	3	2	1	65	2	5	4	86
学生生活について	5	2	1	0	44	1	1	4	58
学生の学習状況について	5	2	3	1	67	3	5	4	90
就職状況について	2	2	2	1	56	2	0	5	70
個別相談について	3	2	0	1	10	0	1	2	19
その他	0	0	1	0	6	1	0	0	8

3. 父母会活動活性化要望項目

項目	岩手	福岡	長野	高知	東京	松本	愛知	広島	合計
地区別父母懇談会の実施	6	1	1	1	48	1	5	3	66
教員の海外研修助成	0	1	1	0	11	1	1	0	15
海外研修学生引率者助成	0	1	0	0	10	0	0	1	12
就職指導に対する助成	4	3	2	0	77	2	5	1	94
新入生教育に対する助成	2	2	0	0	16	0	0	1	21
課外活動団体への助成・学生顕彰など	0	1	0	0	19	0	2	1	23
大学行事への助成	3	1	0	0	23	0	2	0	29
卒業パーティーの開催	1	0	0	0	15	0	0	0	16
卒業アルバムの贈呈	1	0	1	0	15	0	0	1	18
奨学金の給付	1	1	0	0	37	1	3	0	43
父母会報の発行	2	0	0	1	15	0	1	0	19
留学生支援に関する助成	0	0	0	0	7	0	0	0	7
弔慰金・災害見舞金の支給	1	1	0	0	5	0	0	0	7



二松學舎大学父母会では、今年度より新たな奨学金制度を設け、学生の資格取得に支援を行ってまいります。父母会ホームページに「二松學舎大学父母会成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金支給要項」を載せております。

今年度の申請は、十月二十七日(月)から要項を配布し、十一月四日(火)～二十一日(金)に一号館三階学生支援課窓口で受付致します。ご不明な点は、学生支援課までお問い合わせ下さい。

二松學舎大学父母会成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金の募集



すでにご存知のことと思いますが、今夏、附属高校野球部が甲子園に出場し、ベスト一六まで進みました。甲子園出場に際し、二松學舎大学父母会では、八月五日(火)、木村一成父母会長から松葉幸男校長にお祝いをお渡ししました。

二松學舎大学父母会から附属高校野球部に甲子園出場のお祝いをお渡ししました。

就職に関する講演会 (於・地区別父母懇談会東京会場)

演題 「就職を取り巻く状況と親の関わり方について」
 講師 株式会社デイスコ採用広報カンパニー
 学生広報グループ長 山砥 敏宏氏

今年度の地区別父母懇談会では、就職活動への親としての関わり方、支援のあり方についての講演会を開催しました。ここで、この講演会の概要をご報告いたします。

今回の講演は、二部構成となっており、第一部では「就職活動の今」と題して、現在の就職活動を取り巻く環境やスケジュールについての説明と、就職活動の「今」を実感し、就職活動期のお子様との関わり方について、更に企業が求める人材等について講演されました。まず就職活動について、親と子の意識について次のように示されました。

一、学生の八割以上が就職活動に保護者のサポートを必要としている。二、保護者は現在の就職全般に対する知識がなく、無関心なケースが多い。三、保護者は、就職に関しての知識と子供のサポート方法を本音では知りたがっている。四、親子で会話をしているケースは、希望通りの企業に内定する傾向がある。五、親子で会話をしていないケースは、親子とも内定先に不満がある傾向がある。(株)デイスコ調査)

ここに挙げられているとおり、「学生も保護者のサポートを求めている」、一方で「保護者もサポート方法について知

りたがっている」、ということが示されており、そのためにも親子での会話—コミュニケーションが重要であることがご理解いただけるかと存じます。また、学生は、「今」の時代の就職活動をするのであつて、保護者様ご自身の経験等から、「かつてはこうだった」という考え方はなくすことが肝要であるとの指摘もなされていきました。そして第二部として、「お子様へのサポート」と題して、いよいよ具体的なサポートのあり方についてお話しされました。まずサポートについては、「お子様が自立的に活動できるようにする」ということであり、「無関心」、「過干渉」はタブーであるとの原則が示され、前半部でも提示された親子でのコミュニケーションが重要であると、再度お話しされておりました。そして、学生の思いを「理解」し、希望や活動を「認め」て、「自立」を促すことがサポートの根幹であり、「押し付け」、「無関心」、「否定」はタブーであつて慎まれたほうがよい、とお話しされて、講演会の結びとなりました。私共も学生とのコミュニケーションをとるにあつて、「押し付け」や「否定」等といったことは厳に慎んでいる所ではありますが、今回の講演会により、再度、認識を新たにしたい

がいたしました。最後に今回の講演の中で提示された「企業が求める人材」を紹介して、この報告のまとめとさせていただきます。ここであげる事項は、一つの例であつて、全てではありませんが、私共も多くの企業様等からうかがっていることと同様のことばかりですので、ご紹介いたします。ご参考までにご一読いただければ、と存じます。また私共も、様々な場面をとらえて、このような人材に少しでも近づけるよう、支援活動に益々尽力して参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

【企業が求める人材】

「自分が今何を判断して、実行し、成果につなげることができる人かどうか?」「小さなことでも自分で考えてこんなことを成し遂げたという自信を持つてアピールできているかどうか?」「この学生を採用したら会社にどれだけ貢献できるかどうか?」「明るく、前向きに行動できる人」「成功体験や失敗体験を持ち、それを現在に活かしている人」「時間に遅れる人、電話の対応が悪い人、面接での受け答えが明確でない人など、基本的なマナーができていない人は評価に値しない」(以上、講演会資料より)

【講演会についてのご感想】

今回の地区別父母懇談会について、アンケートをとらせていただいておりますが、就職に関する講演会についてお寄せいただいたご父母の皆様のご感想等をご紹介させていただきます。本稿のまとめとさせていただきます。

なお、表中の感想につきましては、就職に関する事を抜き出して記載させていただきますので、ご了承ください。

就職に関する講演会アンケート結果

学部学年	アンケート回収件数	就職に関する講演会についての感想
文学部1年次生	26件	・就職について親の関わり方を考えさせられた。 ・時間が短く忙しく説明していたので、理解できないところや、もっと説明を聞きたいところがあった。 ・就職活動のあり方を再確認できた。 ・親のサポートでの自立支援
文学部2年次生	18件	・参加してよかった。 ・きめ細やかな情報を得られた。
文学部3年次生	19件	・就職に関する講演会が印象に残った。
文学部4年次生	8件	・時間が押し気味だったが、内容の濃い講演だった。 ・今までは学内のキャリアセンターの方のお話でしたが、今年は専門企業の方のお話でそれはそれでよかった。
国際政治経済学部1年次生	17件	・就職活動の現況と学生生活の取り組み方が勉強になった。
国際政治経済学部3年次生	12件	・就職の説明は、非常に勉強になりました。来年も実施してください。
国際政治経済学部4年次生	7件	・とても深く心に伝わりました。

※「就職に関する講演会」についての感想を上げさせていただきます。

【四年次生の就職状況】

夏休みも終わり、四年次生にとつては卒業まで残すところ半年となりました。様々な事情で卒業後の進路がまだ決まっていない学生につきましては、引き続き支援をして参ります。前号でもご案内いたしましたように、まだまだ数多くの求人をご頂戴しており、学生の皆さんにはメール配信、学内掲示等により周知しているところです。このように求人情報の提供のほか、就職・卒業後の進路全般にむけての相談等、行なっておりますので、毎度のお願いではございますが、ご父母の皆様からもお子様へキャリアセンターを利用するようにご指導いただければ幸甚に存じます。また、現在キャリアセンターでは、夏休みが明けた直後に、両学部でのゼミナール担当教員の協力のもと、四年次生の卒業後の進路についての現況調査を実施しました。さらにこの調査結果を受け、就職活動中の学生をはじめ、卒業後の進路が未決定の学生に対して、キャリアセンタースタッフより、現在の状況について電話による聞き取り調査を行なっています。原則として、学生本人にお問い合わせをしておりますが、不通の場合等、ご実家にお問い合わせをさせていただく場合もございます。その際には、お手数ですがご協力の程、よろしくお願いいたします。なお、この調査は、四年次生の現状を把握することに加えて、就職活動中の学生に対しましては、先述しました求人情報の提供をはじめとした今後の支援活動を充実させることを目的としており、この調査結果はその他の目的には使用いたしません。

【支援行事】

キャリアセンターでは、就職活動中の

四年次生支援をはじめ、一〜三年次生に向けて様々な支援行事を行なっております。ここでは、十月から十一月にかけて取り行なう支援行事をご案内いたします。これらの行事につきましては、既に学生には周知しているところではございますが、ご父母の皆さまからも学生にご案内いただければ幸甚に存じます。

三年次生対象 就職特別講座

（十月二日〜十二月十日※毎週木曜日）
春セメスターに引き続き、就職特別講座を毎週木曜日の三、四時限に開講します。秋セメスターでは、春セメスター中に学んできた事に続いて、より実践的な内容を取り上げていきます。また、この講座の中でSPI対策も実施します。（SPI対策講座については別途テキスト料が必要となります。）

全学年対象 ニュース時事能力検定ガイダンス（十月一日〜三日）

十一月に実施する「ニュース時事能力検定」の学内検定試験に先立って、ニュース時事能力検定とはどのような検定なのか、どのような試験なのか、受検のための手続き等についてのガイダンスを開催します。一年次生からも受検できる検定ですので、奮ってご参加ください。

全学年対象 秘書検定2級取得講座

（十月四日〜十月二十五日※毎週土曜日 有料講座）

九月に開催した講座に引き続き、毎週土曜日に秘書検定2級取得を目指して十一月試験にむけて、秘書検定について学んでいきます。

四年次生対象 就職力アップ講座

（十月七日）

就職活動を継続している四年次生に対し、これまでの就職活動の振り返りと、自己分析の見直し、そこから発展して、さらに説得力のある自己アピール等を検討する講座です。昨年度より実施し、当該講座を受講した直後に、内定に結びついた卒業生もいました。

四年次生対象 学内合同企業説明会

（十月八日〜九日、十五日〜十六日）

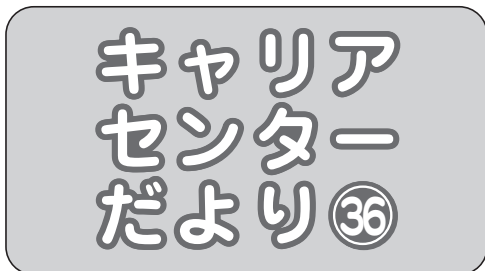
前項でもご紹介いたしましたとおり、採用活動を継続している企業を招聘し、二週にわたって合同企業説明会を開催します。今回招聘する企業は、本学卒業生が在籍している企業をはじめ、本学学生に深く関心を持ってくださっている企業を日替わりで一日あたり四社、合計十六社を招聘し、合同企業説明会を開催いたします。

一・二年次生対象 インターンシップガイダンス（十月二十二日）

「インターンシップ論」（正規科目春セメスター開講）を受講し、当該科目の単位を取得した学生を対象に、春休み期間中のインターンシップ派遣にむけて、ガイダンスを行ないます。

三年次生対象 インターンシップ成果報告会（十月二十九日）

この夏休み期間中に、大学からの派遣によりインターンシップを行なった三年次生によるインターンシップで学んだこと、今後就職活動等への取り組み等についての報告会を開催します。なお当日は、インターンシップの受入企業からも担当者を招聘して報告会を実施いたします。



三年次生対象 面接マナー講座

（十一月十一日〜十二日、十四日）

来年三月から就職活動が始まる現三年次生を対象に、社会で通用するビジネスマナーや面接で好印象を与えるポイント等を、実技指導も取り入れた講座を開講します。これらのマナーは、ご存知の通り一朝一夕に身につくものではありません。また、「就職に関する講演会」の記事でもご紹介したように、「基本的なマナーがなっていない人は評価に値しない」と言われるほど重要なものです。このような講座は、今回のみならず、就職活動開始までの間に回数を重ねて開催していきますので、ご父母の皆様におかれましては、是非これらの講座、支援行事に参加するように、ご家庭でもお声掛け賜りますよう、お願い申し上げます。

冒頭に申し述べましたように、現四年次生の就職活動は、企業・学生双方においてまだ継続しております。現在のところ未内定であったとしても、まだまだ応募するチャンスは多々あり、私共も精一杯、支援して参りますので、是非ともキャリアセンターを利用するよう、ご指導くださいますようお願いいたします。

【まとめにかえて】

冒頭に申し述べましたように、現四年次生の就職活動は、企業・学生双方においてまだ継続しております。現在のところ未内定であったとしても、まだまだ応募するチャンスは多々あり、私共も精一杯、支援して参りますので、是非ともキャリアセンターを利用するよう、ご指導くださいますようお願いいたします。



学内合同企業説明会

第18回 中国語・歴史文化研修 報告

今年で第十八回目を迎えた中国語・歴史文化研修は、八月七日から八月二十七日の三週間の日程で行われた。文学部、国際政治経済学部から計二十六名（男子十名・女子十六名）の学生が参加し、前半を戸内俊介専任講師、後半を松浦史子専任講師が引率した。研修先は、大学の協定校である北京大学歴史学系。本研修を始め、毎年交換留学生や教職員相互派遣などが行われ、非常に良好な交流関係を築いている。



午前中はベテラン講師による少人数制の中国語授業、午後は補講や中国の歴史文化講座も開講され、中国語だけでなく、中国の歴史・文化への理解を深めることができるのが、この研修一番の特色である。また、名所旧跡見学や京劇など、歴史文化講座で学んだ内容について、自分の

目で見て体験することができ。参加学生の中には、海外に行くのが初めての学生も多く、最初は言葉や習慣の違いに戸惑う様子も見られたが、北京大学の講師陣や本学引率教員のきめ細やかな指導の下、授業で学んだ中国語を駆使し、積極的に現地の人々と交流を図っていた。この三週間の海外研修は、参加学生にとって、中国語の習得だけでなく、「異文化」と「多様性」への理解を深め、グローバル感覚を養う良い機会になったに違いない。

からの応募があり、実際に長期留学を実現させている学生もいる。グローバル人材の必要性が叫ばれる今こそ、より多くの学生からの応募を期待している。

(国際交流センター 石川 静香)

「中国語・歴史文化研修に参加して」

中国文学科 三年 森田 真梨奈



筆者：右手前

八月七日から八月二十七日までの二十日間、中国語・歴史文化研修に参加しました。初日からクラス分けテストがあり二十日間そのクラスで授業をしました。授業はすべて中国語で進められ、私達のクラスでは「表演(劇)や「卧底」猜词(言葉当てゲーム)をしました。楽しみながらリスニング力や会話力、さらには表現力も高めることができたのではないかと思います。

この研修中、市内観光もしました。終日自由行動の日には、胡同(下町)・頤和園(清朝の離宮)・万里の長城・天安門広場・故宮博物館などたくさん名所に行きました。その中でも、万里の長城が一番印象に残っています。急な角度と不安定な足場に、登るのも一苦労、降りるのも一苦労でしたが、自分の足でその場に立って歴史や文化を感じる事ができ感動しました。

さらに、半日自由行動の日にも、さまざまな場所へ出かけました。オリンピック公園に行ったり、北京動物園でジャイアントパンダを見たり、老舗店で北京ダックを食べたり、安永里のデパートでは値段交渉もしました。ただ楽しい中国語ながらも十分の一段まで下げることができました。これもいい勉強になったと思います。わたしにとって、すべてが初めての経験で、驚きの連続でした。日本では考えられないようなこともたくさんありました。ガイドブックでは見ることができないものもたくさん見ました。毎日が新鮮で、本当に楽しかったです。

オーストラリア語学研修 報告

二〇一四年八月十六日から九月七日までの三週間、オーストラリア屈指の名門大学であるクイーンズランド大学（ブリスベン市）附属語学教育機関（UCTEJO）において、昨年度に続き二度目の実施となるオーストラリア語学研修が行われた。文学部、国際政治経済学部から計二十名（男子九名・女子十一名）の学生が参加し、前半を西川雅子特任講師、後半を本多峰子教授が引率した。

本研修は、午前中はコミュニケーション力強化に重点を置いた英語授業、午後には教室内外で様々なアクティビティ、さらに日帰り小旅行が組まれ、充実した内容になっている。授業では、グループワークやプレゼンテーション、現地大学生へのインタビュー等で実践的な英会話に取り組み、オーストラリアと日本の文化・社会に関するゲスト講義を受講した。また、現地



大学生との市街地散策やスポーツを通じた交流、クイーンズランド州を代表する国立公園や動植物園の見学などを通して、オーストラリア固有の豊かな自然に触れ、多民族社会への理解を深めた。ホームステイでは、現地の人の生活様式を体験し、家族の一員として過ごすことで、帰国時には別れが寂しいと感じるようなつながりを築けた。海外滞在やホームステイが初めてという参加者も多かったが、研修先の職員や本校引率教員のきめ細やかなサポートのもと、次第に現地での生活に慣れてくると、積極的に他クラスの国籍の異なる留学生と友達になったり、ホストファミリーとの週末を楽しんだりと、社会的に過ごす姿が見られた。これまで学んできた英語の力を実生活

で活かすだけでなく、文化や生活習慣の違いにも柔軟に対応し、視野を広げて新しいことに挑戦する機会になったようである。

本学では毎年六月、オーストラリア（シドニー工科大学）への一年間の派遣留学の審査会が行われるため、本研修の経験を活かして、多くの学生が長期の海外留学にチャレンジすることが期待がされる。今後の学業や将来のキャリアにおいてグローバルに活躍するため、最初の一步として役立ててほしい。（国際交流センター 石井 真理）

「オーストラリア語学研修に参加して」

国際政治経済学科 二年

酒井 華奈子

私は、三週間という短い期間だったがオーストラリア語学研修に参加させていただいた。参加を希望した動機は、ホームステイを通して英語しか使えない環境に身を投じたかったからと、現地の大学に通うことで他国の人と交流がしたかったからである。

ホームステイ先では温かい家族に迎えられる、拙い英語でも笑顔で会話をしてくれた。目を重ねるごとに口数も多くなり、一緒にテレビを見ながら話したり、お出かけしたり良い関係を築くことができた。大学では、クラスが全員日本人で構成されていた点に少し物足りなさを感じたけれど、授業では

実的な会話表現に加えてオーストラリアの文化についても学ぶことができた。もちろん現地での生徒や他国の留学生と交流する機会もあり、英語で会話をする楽しさを実感することができた。

そして私にとって一番刺激をくれたことは、ホームステイ先に中国からきた留学生がいたことである。彼女とはたった一週間しか共に過ごすことはできなかったけれど、現地での慣れない生活を先に来ていた先輩としてサポートしてくれた。また彼女や友人たちの流暢な英語に圧倒され、自分の英語能力のなさを痛感した。しかし同時に向上心を持つことができたことは大きな収穫である。

最後に、苦戦したバス、温かい人々、他にも些細なことでも実際に自分の足で行ってみなければわからないことをたくさん発見でき、本来やってみたくったこと以上に様々な経験ができたことをとても嬉しく思う。また今回共に研修に参加した仲間たちとも、各々の目標をもって日々精進することができた。この経験を糧にして新しいことに挑戦していきたい。



中国からきた留学生と（筆者：右）

私の 学生時代



国際政治経済学部
専任講師
古賀光生

私の学生生活の基礎は、浪人中に培われた。その時に身に付けた読書の経験が、大学における学びと後の進路に大きく影響したためである。

浪人中、既に大学に入学していた同級生たちに追いつくために、受験勉強と並行して、大学生が読みそうな本を数多く読むことを決意した。

受験勉強にも役立つような世界史を手始めに、徐々に文学や思想、社会科学などに範囲を広げて、興味を持つて本を読み漁った。もちろん、浪

人生の独り善がりであるから、体系性には乏しかった。それでも、一冊読み終わるごとに、徐々に世界が広がっていく手応えを感じた。そして、その手応えが次の一冊へ手を伸ばす強い動機となった。

大学に入っても、こうした習慣は続いた。浪人中との違いは、読んだ本の感想を伝え合う仲間と、読むべき良書を紹介してくれる教員の存在であった。本を読み、友人と議論して、それなりに充実した学生時代を過ごせたと思う。

こうした読書の蓄積から、多くのものが得られた。その一つとして、大学での講義の理解が深まったことがある。大学に入ると、これまで経験したことがないほどに、数多くの分野の講義に出席することとなった。講義は難解で、予習と復習に多くの時間を費やさなければならなかった。その際に、これまでの読書で得た知識が大いに役に立った。また、分からなければ読んで調べるという習慣そのものも助けとなった。

もう一つの成果は、学問そのものへの関心が芽生えたことであった。疑問に思ったことを徹底的に考えぬく楽しさは、読書をめぐる友人との議論を通じて覚えたものであった。そこから学部で2年生で大学院進学を決意して、紆余曲折を経て、現在に至っている。

こうした経験から、今でも、学生に本を薦める際にはつい肩に力がこもる。学生から本の感想を聞くことができるのは、嬉しい限りである。

親にとって、子どもが大学生になるということは、大学生の子どもをもつ親になるということでもあります。

お子さんを一人暮らしさせた頃には、「うちの子はちゃんと生活できているのか、ご飯は食べているのだろうか、大学には通っているのか、友達はできたのか」等々、あれもこれも心配だったのではないのでしょうか。もしかしたら、お子さんと離れて寂しくてたまらなくなったり、心にぽっかりと穴が開いたような感じがしたり、なんとなく無気力になったり、落ち込んだり、イライラしたり、愚痴っぽくなったりと、落ち着かない時期を過ごされた方もいらっしゃいます。

子どもが巣立ちによる喪失感から親の気持ちが変わらうてしまうことを「空の巣症候群」といったりします。

子どもが巣立っていくことには寂しさもあるかもしれませんが、お子さんを一人送り出したことで、生活には以前より余裕ができたのではないのでしょうか。子育ては確実に終わりに近づいています。お

学 生 相 談 室

だ よ り 86

カウンセラー 奥野 光

子さんが新しい生活を始めたように、お父さんお母さんも、あらためて自分の活動や楽しみに目を向けてみてはいかがでしょうか。お子さんが自宅から通学していて物理的にはまだ「巣立っていない」ご家庭でも同じです。

巣立ったといっても、親の役割が終わったわけではありません。経済的な援助はまだ必要です。また、口では立派なことが言えて、たいていのに自力で対処できませんが、うまくいかないときや困ったときには親の助言が必要で、何かあったときにいつでも頼れる最終的な拠り所であってほしい。

そして、親自身が自分らしく生き生きと過ごしている姿を見せましょう。こうしなさい、こうしなさいと言いつつも、お子さんの心に届きます。

子育ても終盤です。お父さんお母さんはお子さんが巣立った後の人生をどんな風に過ごしたいですか。

子育ても終盤です。お父さんお母さんはお子さんが巣立った後の人生をどんな風に過ごしたいですか。

子育ても終盤です。お父さんお母さんはお子さんが巣立った後の人生をどんな風に過ごしたいですか。

田端ゼミナール

本年度の春セメでは、「戦後日本の経済成長」という本を輪読して、皆で議論したり、パソコンを使って、現在の日本経済を分析したりしています。

私たちは、田端ゼミでは「やる時は、やる！」をモットーに三、四年合同で二時限明るく楽しく活動しています。活動内容は、基本的に経済学中心ですが細かい内容は学生が決めます。また学生側から気になる話がある場合はそれを中心に授業を進行するので必ずしも経済学ではないのが特徴です。

次に、田端先生についてお話しします。



最後に、田端ゼミはマネージメント力を身に付ける為、コンパやゼミ合同の手配はすべて学生で行います。勉強以外の力も身につくのが田端ゼミの特徴です。

この会報が届くとすぐに、本学の「創緑祭」が十一月二日・三日と開催されます。この「創緑祭」は、学生及び教授先生方の貴重な作品を見ることが出来ます。また、父母会では無料の休憩所を一号館十二階の一〇一〇一号室でお茶とお菓子をご用意してお待ちしています。お茶を飲みながら、おしゃべりをしませんか。どうぞ、お立ち寄りください。お待ちしております。

国際政治経済学部三年 牛窪 長

小方ゼミナール

私たち小方ゼミナールでは主な研究活動として中国古典作品を中国語のまま読解することを中心に行っています。ねらいとしては、著者が記した原文のまま内容を直訳することで作者の心意が理解できるということと、声に出して読むことで作者がどのような表現技法を用いたか、実感しながら学習できることが大きな目的です。

期かけて学びました。夏期休暇中のゼミ集中講義では、実際に自分たちで取り上げたい作品を選び、その中でも印象的な場面や文章を数行訳して発表を行いました。訳本に頼らず、自分たちなりに訳すことが今回のテーマだったので、同作品の発表でも各々解釈が違うなど、様々発見もありました。特に質疑応答の場面では、お互いの意見をぶつけることもできて、非常に有意義な時間になりました。

残るものにすることを目標にしています。古典文学は、数も多く自分に合った作品を、決めあぐねている人もいますが、小方先生のアドバイスや、丁寧な指導のおかげで、私たちはとても自由に楽しく取り組むことができています。

雨が多かった夏も過ぎ、虫たちの声もそろそろ聞こえなくなり、秋も終わりが近づいています。広島での災害では、本学在学中の学生の实家もあり、人ごととは思えない出来事でした。そして、この夏には附属高校の子園の出席があり、喜ばしいこともありました。三回戦まで駒を進めたことはもとより、全国に二松學舎大学の名前を広めることが出来ました。

中国文学科三年 大日向 聖

ゼミ 探訪

また、田端ゼミには「三分間スピーチ」という伝統スピーチがあり、ゼミ開始時にお題が与えられ、人前で三分間スピーチをします。初めは、なかなか話すのは難しいですが、何回も繰り返すうちに、慣れてきて、プレゼンテーション力が身に付きます。

先生はなんととっても雑談が凄いです。私達の知らない雑談をお話しくださるので、思わず聞き入ってしまいます。

六月から七月にかけて全国八ヶ所で開催した父母会主催の地区別懇談会はいかがだったでしょうか。延べ三九三名の保護者の参加がありました。来年も各地で実施しますので参加をお願いします。

